A 161　主婦の就労形態と食生活に関する研究

実践女大家政　○関　登美子　　関口　勉子　　速水　泱
藤女短大　　大野　禎子　　富山女短大　　安宅　千香子

目的　主婦の就労形態および家族構成による食生活の実状を把握し、今後の栄養教育を考える上で本調査を実施した。
今回は、家事作業の簡便化の一要因としての加工食品および調理済食品がどのように食生活に導入されているかを中心に調査を行った。

方法　昭和56年6月，札幌市在住主婦200名，富山市およびその近郊在住主婦300名首都圏在住主婦500名を対象として、アンケート調査を行った。
調査内容は、家族構成・就労形態および食生活の現状・生活時間調査等である。

結果　就労主婦および専業主婦について、主婦以外の家事（この場合は食に関する分野従事者の有無により4グループに分け、グループ間の相違をみた。
加工食品および調理済食品の利用については、就労主婦は能率化をとらえ、専業主婦は家族の好みや調理技術の補足をその主な利用目的としているが、いづれにしても食生活に対する価値観の変化が利用頻度の増化傾向を示していると思われる。また、これらの利用状況については主婦の就労状況，作業協力者の有無，主婦の年齢および地域による差がわずかながらみうけられた。